や　やりたいことを仕事にする

私が関わってきたまちづくりの仕事は、ほとんどが自治体や民間企業からの委託で、それぞれ目的や業務の成果として求められるものはあらかじめ決まっていて、それをどのように達成するかという方法が求められる。委託はプロポーザルという複数のまちづくり事務所から企画提案を募集し、その評価で決まることも多い。それはそれで、私たちが培ってきたまちづくりの方法論が現場の課題解決に役立つと認めてもらえたという嬉しさがある。ただそこにはどうしても、まちづくりへの関わりを口をあけて待っているもどかしさがある。

まちづくりへの関わりを主体的に持とうとするとどうすれば良いのか。まず思い浮かぶのがボランティアとして関わるということだ。まちづくりプランナーとしての知識や経験を生かし、顕在化しにくい地域の声を丁寧にひろい見える化したり、地域課題を踏まえた提案を作成、公表するなどの取組が考えられる。それらを完全無償で行うのはよほど経済的余裕がなければ厳しいし長続きしない。そんな時に助けになるのが公益財団などによる活動助成金である。ただ、助成申請の審査にあたっては広域的な視点からみたテーマの重要性や手法の先駆性が問われるので、ローカルな取組にはハードルが高い。最近では、ローカルであっても取組に共感する方からの支援を集めるクラウドファンディングの仕組みが広がってきている。

ちょっと特殊なところでは自治体が研究調査費をもっていて、それを活用することもある。私たちも、住民参加型の施策事例を詳細に調査し参加の方法論を構築したり、住民参加型のパブリックアートの手法を試行実施し検証したり、随分お世話になった。民間企業でも研究調査費をもっていて外部の提案を受け入れることがある。三次元コンピュータグラフィックスを都市デザインに活用する手法の開発では大変お世話になった。

もっと現実的なのは、自治体への事業提案だ。自治体の抱える課題を先取りした事業をこちらから提案して予算化されるようにする。

「やりたいことを仕事にする」というのは理想だけれど、現実は厳しいと思い込まずに、様々なチャンネルでトライしてみよう。まあ「やりたいこと」が無ければ始まらないのだけれど。